

2014年3月13日

修了生各位

2013年度 JAIST 同窓会 開催報告

JAIST 同窓会

JAIST 修了生相互の親睦を深め、修了生と本学との交流を維持・促進する等の目的で、2014年1月25日（土）に本学東京サテライトにおいて開催いたしました2013年度JAIST同窓会および懇親会につきまして、下記のとおり概要をご報告いたします。

5. 同窓会日時および場所

日時: 2014年1月25日(土) 15:00-18:00

場所: JAIST 東京サテライト C・D・E 教室

6. 2013年度同窓会総会開催趣旨

今回の同窓会総会および懇親会は、橋本昌嗣同窓会長を中心に主に下記の目的で企画開催いたしました。

(6) 本学修了生相互の親睦を厚くする.

(7) 同窓会組織の現状を確認する.

(8) 修了生の活躍を皆で共有する.

(9) JAIST の東京サテライトをはじめとする現在の活動を修了生に知らせる.

(10) 指導教員をはじめ本学教員および本学関係者と交流を深める

7. 当日のプログラム及び議事録

15:00 開会挨拶（同窓会長，学長）

15:15 同窓会総会（活動報告，役員改選）

・これまでの同窓会活動を紹介

・2012年度決算，2013年度の活動と会計の中間報告，2014年度の活動計画および予算案 原案の通り承認

・役員案 原案の通り承認

15:30 大学の近況紹介

・JAIST を世界トップレベルの研究機関に（川上理事）

・グローバル化時代の大学院教育（日比野理事）

16:00 情報科学研究科修了生の講演

村本 衛一 様（パナソニック株式会社 R&D 本部）

「テレビ会議HDコム開発 (StarBED ノウハウの製品開発への適用)」

16:40 材料科学研究科修了生の講演

田中 英樹 様 (セイコーエプソン株式会社 コア技術開発センター)

「やわらかデバイスをめざして」

17:20 知識科学研究科修了生の講演

佐竹 右幾 様 (シンフォニーエレクトロニクス株式会社 代表取締役社長)

「JAIST-MOTで学んだことを、積極的に事業・教育へ活用・展開」

18:00 移動・会場後片付け

18:15 懇親会 (場所: 品川インターシティ B1F 「PRONTO」 -20:30)

8. 参加者

今回は、教員を含め同窓会へは 40 名、懇親会へは 35 名、総数で 46 名(同窓会と懇親会のどちらかへの参加を含む)のご参加をいただきました。

お忙しい中、ご協力・ご参加くださいました皆様に感謝いたします。今後とも JAIST 同窓会をよろしく願いいたします。

以上

2013 年度 JAIST 同窓会 講演要旨

2014 年 1 月 25 日(土) 於 JAIST 東京サテライト

情報科学研究科修士の講演

村本 衛一 様 (パナソニック株式会社 R&D 本部)

「テレビ会議HDコム開発 (StarBED ノウハウの製品開発への適用) 」

講演要旨:

村本さんは JAIST 時代、篠田研究室でネットワークについて研究をしていました。修了後、Panasonic に就職し、テレビ会議「HD コム」の開発に携わってきました。テレビ会議システムとしては後発なため、他社を上回る強みが求められましたが、ネットワークの流量を制御することで安定した会議品質を提供することに成功しました。この時に役立ったのが、NICT の StarBed によるシミュレーションです。さまざまな条件下でシミュレーションを行い、自社製品が優れることを確認しました。実証することによって、会社の上層部を良く説得することもできました。

その後取り組んだのは、無線 LAN や WIMAX などの、ワイヤレス環境下での製品です。ワイヤレス環境では平常時でも遅延変動が大きいことが問題です。これも JAIST-StarBED から受け継いだシミュレーションで評価することができ、商品化に結び付けました。デモでは、Skype とは雲泥の差という評判が得られ、市場での評判も高評価です。今後新興国では有線よりも無線ネットワークの方が広く普及すると予想され、グローバルな市場で広く使われることを期待しています。

材料科学研究科修士の講演

田中 英樹 様 (セイコーエプソン株式会社 コア技術開発センター)

「やわらかデバイスをめざして」

講演要旨:

田中さんは JAIST 時代、水谷研で研究を行い博士の学位を取得しました。学位取得後 1 年間 JAIST の助手として大学で研究をつづけ、その後理化学研究所の潮田先生(元 JAIST 学長)のグループで研究を発展させました。

研究を続ける中で、実社会への働きかけを希望し、日立製作所に移り、LSI のプロセス開発と、日本初の 300mmSi ウェーハによる LSI 製造工場の立ち上げに携わりました。製造工場の立ち上げは素晴らしい業績ですが、毎日の仕事は製品不良と戦う毎日であり、研究への渴望からセイコーエプソンに転職しました。エプソンでは、現在 JAIST 教授である下田先生、井上先生の下で液体シリコンの研究に取り組みました。

現在はウェアラブル機器に搭載するデバイスを開発しています。講演では高分子材料から成るアクチュエータを紹介しました。高分子アクチュエータの最大の特徴は柔らかさを持つということにあります。なめらかな動作の様子をビデオで見せて頂きました。柔らかい性質を利用し、生体や生物を真似たロボットなどへの利用が期待されます。またセンサーとしても従来の曲げセンサーでは対応できない分野での利用が期待できます。

ウェアラブル機器は、さらなる大きな波になると考えています。Google Glass に代表されるヘッドマウントディスプレイや、腕時計型の端末が多く出現し話題になっていますが、今後はさらに多様な形態をとり発展していくと考えています。例として皮膚に直接張り付けたり、コンタクトレンズに実装したセンサーやディスプレイ等、人の生活により溶け込んだデバイスを紹介しました。

知識科学研究科修了生の講演

佐竹 右幾 様 (シンフォニーエレクトロニクス株式会社 代表取締役社長)

「JAIST-MOTで学んだことを、積極的に事業・教育へ活用・展開」

講演要旨:

佐竹さんは防衛大を経て海上自衛隊に入隊しました。その後、ナナオを経てサンシン電気に勤務しました。サンシン電気は半導体専門商社なのですが、ゼロから技術開発部門を立ち上げました。この立ち上げの時に、MOT で学んだ技術経営を実践しました。

第一活動期として、KJ 法やブレインストーミングによるグループディスカッションなど、MOT で学んだことを会社に導入しました。経営のボキャブラリーを社内に導入することにより、経営指標やアプローチが明確になりました。

自衛隊時代の五省を経営向けに改め、以下を目標に経営に携わりました。

- ・人に夢を語れるか。
- ・創造や改革を生み出す執念を持っているか
- ・楽しみながらも自分に厳しいか
- ・情熱を持続しているか
- ・人と情報や夢を共有しているか

第二活動期は MOT 修了後の模索検討期間でした。学んだことを実績と教育に展開することを試みました。業界初のインターリーブ用リンクトランス開発。量産など、幾つかの成功事例を紹介し、周辺企業との協業、またその実例や事業手法を大学で講義・講演することなどに取り組みました。

第三活動期は 2014 年 3 月から、新しい会社を起業し、開始予定です。学んだ技術経営を実践・活用すると、起業が成功することを自らが実践しようと思います。その業務内容には、技術情報を公開し、協業を容易にする、新しい試みなどもあります。ハード、ソフト、ヒューマンを融合したビジネス、感性 (Sense-ware) に挑戦するビジネスを目指します。

(要旨とりまとめ: 井口)